

教育目標

豊かな知性を育て きびしく自己をきたえ 高め合う生徒

教育課題

- ① 社会性の育成
- ② 分かる、できる授業の推進
- ③ 同和教育、人権教育の推進
- ④ たくましく生きるための健康や体力、食育を通した望ましい生活習慣の形成

学校経営方針

- 人とかかわり合いを通して、望ましい人間関係をつくる能力の育成
- ① 諸行事、諸活動における自然体験、社会体験、生活体験を通して、自己有用感をはぐくむ。
- ② 生徒指導・特別支援教育を基盤とした学習指導、学級経営等で生徒の居場所づくりを行い、その上に生徒の主体的な活動を仕組むことで、生徒間の絆づくりを行う。
- ③ 研修を充実させ、授業改革を図る。
- ④ 職員の組織力を活性化し、やりがいをもって取り組めるようにする。

当校教育の数値目標

知

「全校体制で取り組む学力向上」

- ① 授業が「分かる、できる」といえる生徒の割合を85%以上にする。
- ② すべての学年で、3教科のweb配信テストを県平均以上にする。
- ③ 「意欲的に授業に取り組んだ」といえる生徒の割合を85%以上にする。
- ④ 「家庭学習に毎日、平均1時間以上取り組んでいる」生徒の割合を70%以上にする。

徳

「豊かな心の育成」

- ① 「学校生活が楽しい」と感じる生徒の割合を90%以上にする。
- ② 「いじめや差別を許さない」といえる生徒を100%にする。
- ③ 「自分が役に立っていることを実感し、前向きに活動できた」といえる生徒の割合を70%以上にする。

体

「体力づくりの実践と生活習慣の改善」

- ① 1学期体力テストの結果、県平均以上になる項目を60%以上にする。
- ② 2学期の体力テスト結果が1学期以上になる項目を60%以上にする。(1,2年生)
- ③ 23時以降にメディアを使用しない割合を65%以上にする。

保護者・地域との連携

- 「中学校は、PTA 懇談会やアンケートの実施などにより、保護者の意見を教育活動に活かしている」とする保護者の割合を80%以上にする。

課題解決に向けた努力事項

確かな学力の向上

- <教科、日本語、総合>
- 言語活動の充実をキーワードに生徒の主体的な学習や活動を導入し、学び合いのよさを実感できるようにする
- 「分かる・できる」を生徒が実感できる授業実践を推進する
- 「学習3原則」の徹底を図り、自立した学習態度を育成する
- 自学ノートの活用や各教科からの宿題を通し、家庭学習の定着を図る

豊かな心の育成

- <道徳、生徒指導、特活>
- 体験活動や道徳の時間への位置付けを工夫し、道徳的実践力をさらに高める
- 生徒会を中心とした自治活動を推進し、よりよい学校づくりに取り組む
- 体育祭や合唱コンクール等の縦割り活動を継続し、自分のよさを集団の中で発揮する機会を意図的に設ける

体力・生活習慣

- <体力・健康教育>
- 部活単位での基礎トレーニングの継続により、体力の向上に努める
- 質のよい睡眠を心がけるように、23時以降のメディアを使用しないよう支援する

食とみどりの新発田っ子フランチ

- <食育、総合、情操教育>
- 豊かな情操を培う体験活動を継続する
- 地域の食文化、産業、自然や文化を教材とした「食育」を実践する

進路指導

- 自己理解を深めさせ、具体的な目標を持たせる
- 職場体験学習を通したキャリア教育を推進する

人権教育、同和教育

- 豊かな関わりを体験し、差別や偏見のない人間関係を育成する
- 同和教育の視点に立った授業を実践する

中1ギャップ解消

- 社会的スキル育成プログラムに基づく人間関係づくり能力を育成する
- 複数の目によるきめ細かな対応を強化する
- 小中学校間の緊密な連携体制を構築する

特別支援教育

- 生徒理解に努め、個に応じた学習環境を整備する
- 生活単元に重点をおいた学習指導を推進する
- 交流学习を通して協調性、集団生活への参加能力を高める